

2021年度 鵬(Phoenix)プラン ～仙台高校のキャリアプラン～

総合的な探究の時間推進委員会

1, 「鵬 (Phoenix) プラン」について

今日、環境問題の深刻化、超高齢社会の到来による人口構成の変化、テクノロジーの著しい進展など、変化の激しい時代を迎えている中、溢れる情報の中から正しいもの、自分にとって本当に必要なものを選択する力を身に付けることが求められている。また、学習指導要領の改訂や大学入試改革など、教育を取り巻く環境も大きく変化してきていることから、実社会や実生活と自己との関わりから新たな問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現することができるようになる必要がある。一方、Z世代といわれるミレニアル世代後半の現代の若者は、勤労観、職業観について従来とは違った価値観を有し、「将来の収入」よりも「自分の好奇心」を重要視する傾向が強く、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の未熟さなどについても、各方面から指摘されているのが現状である。こうした中、これからの子供たちに必要とされているのが、「なぜこうなるのか？」という「探究心」であり、その先にある本質を見極めるための「思考力」である。これを身に付けていくことによって、それぞれが今後直面するSociety5.0の時代の様々な課題に柔軟かつ逞しく対応し、社会人、職業人として自立していくことができるだろう。鵬プランは、そのための「生きる力」を育むキャリアプランである。

仙台高校の「キャリアプラン」は、様々な社会的な分野との接点を持つ中で、具体的な社会像、将来像をイメージし、「社会の中で何ができるか、という志」を見出し、生き方や進路決定につなげて行くものである。また、教科学習とも関連付け、学ぶ意義を感じ、学力の向上にもつなげて行くことを目的にし、2009年度から始まった。それまでの「総合的な学習の時間」を含めた行事をキャリア教育の視点で紡ぎ直し、SDGsが掲げるグローバルな課題に向き合いながら、修正、新設を行い、各部署間で連携した「キャリア教育」を行うもので、「仙台自分づくり教育」の取り組みにも合致しているものである。

2, 「鵬 (Phoenix) プラン」の目的

「生きる力」を育てるとともに、自分の興味関心、能力や適性、社会の中で何ができるかという志を理解することで、学ぶ意欲を喚起し、意思決定能力や思考力、学力の向上につなげて行く。

3, 実施する活動

(1) 自己理解とコンセンサスプログラム (担当：進路指導部)

1年次始めに「進路適性検査」を実施し、自分の興味関心の指向性の理解を深める。

将来的にはコミュニケーションの必要性を理解するため、「コンセンサスゲーム」や「起業体験」など、お互いの「価値観」を承認し、新たな案を提案するコンセンサスに有効なコーチングスキル等を学ぶプログラムを実施する。

(2) ボランティア学習 (担当：生徒指導部、総務部)

ホームルームを通じてボランティアの概念を学び、高校生として何が出来るかを考えることで、ボランティア精神を涵養する。また、生徒会が主体になった特別支援学校との交流会を実施し、他の立場に立って物事を捉えたときに変わる世界観を体得することや、自主的なボランティア体験を推奨することで、社会奉仕を考える活動を行う。さらに、鵬 (Phoenix) プランとして、3年間のローテーション (ボランティア学習・環境学習・国際理解学習) で講演会を開催し啓発活動を行う。また、文化祭における模擬店の収益の一部を寄付し、募金活動を行っている。

(3) 環境学習 (担当：生徒指導部、各学年)

生徒の環境委員会を核に、ゴミ分別学習や環境問題学習など日常的な活動を行う。また、各学年においてSDGsに関する理解を深めていく中で、我々の身の周りにある環境に関する課題を見だし、その解決策について生徒相互に意見交換をするなどの探究活動を行っている。

(4) 保健学習 (担当：保健部)

1年次では「DVについて」、2年次では「性について」、3年次では「薬物乱用防止について」の講演会を実施する。また、生徒の保健委員会を中心に、保健日よりや保健室前の展示を通し、健康促進に関する啓発活動を行う。なお、1年次にはスクール・カウンセラーによるグループエンカウンター講習会を実施する。

(5) 国際理解学習 (担当：英語・国際理解教育部、各学年)

国際理解のための交流会 (ホームルーム単位) を1, 2年次で実施する。また、各学年においてSDGsに関する理解を深めていく中で、我々の身の周りにある国際的視点から課題を見だし、その解決策について生徒相互に意見交換をするなどの探究活動を行っている。

(6) 情報学習 (担当：図書・マルチメディア部)

膨大な情報量の中で、正しい情報を選択し利用する力を育てる。また、プレゼンテーション能力 (とくに、1年次のフェニックスゼミ、2年次のホームルーム研修旅行での発表) を育てる。

(7) 読書・小論文学習 (担当：図書・マルチメディア部・進路指導部)

読書、小論文学習を通じ、現代社会を多面的に捉え、それに対して意見を述べられる力を養う。定期的に行われる朝読書と、1年次 (演習2, 講演会1, ガイダンス1), 2年次 (演習2, ガイダンス1), 3年次 (演習1, 講演会1) の小論文指導を行う。

また、1年次の後半から2年次前半にかけて各分野のレポート学習を行う。企画運営は学年や進路指導部と協力して行う。3年次の総合型選抜・学校推薦型選抜については、小論文演習や講話を通して図書マルチメディア部と進路指導部が中心となって指導を行う。

1年次4月にホームルーム単位で「図書館オリエンテーション」を行う。

(8) 研究・調査学習 (担当：1年次, 2年次)

①フェニックスゼミ - テーマ別学習 (1年次)

自分の興味ある分野を20程度の講座から選び、テーマ別学習を行う。1講座あたり生徒20人以下を原則とし、1学年教員全員と他学年等からの希望者が担当し、SDGsに関連した講座を設ける。11月に「スペシャルデー」を1日設定し、フィールドワークを行う。「ジェンダー」、「つかう責任」、「まちづくり」、「フードロス」、「不平等について」などと向き合い、SDGsが掲げる持続可能な開発目標を身近な事象と絡めながら学習を展開していく。自分から調べる行為、情報収集の方法、現代社会の分析などを行い、1月に研究発表会を実施する。また、外部への発表として次年度の文化祭で展示発表する。

②ホームルーム研修旅行（2年次）

クラス毎に学習内容や目的地を決定し研修旅行（3泊4日）を実施する。フィールドワークも含めた学習を実施。自分から調べる行為、情報収集の方法、他の地域社会の分析などを、研修旅行の中で行う。旅行計画書の作成、業者への説明、入札、落札の過程も、ホームルーム研修旅行委員会を中心に学習・実施し、1月に研究発表会を行う。また、外部への発表として次年度の文化祭で展示発表する。

(9) キャリアプラン学習（担当：進路指導部、教務部）

①職業学習（進路指導部）

1年次では、進路適性検査の結果分析とともに、SDGsフォーラムの中で職業ガイダンスを実施。夏季休業中に、興味関心のある職業についてのレポート作成を行う。

②SDGsフォーラム、進路講話、大学模擬授業、未来プラン（進路指導部）

1年次の冬季休業明けに学年全体でSDGsフォーラムを行い、SDGsと自身の進路について関連付けを行う。3月には学問系統別ガイダンスを内部講師で実施し、その延長として、2年次の4月には大学模擬授業を実施することで、学問についての興味関心の発見と探究心の育成を行う。また、2年次で実施する「未来プラン」では、1年間を通して数回に分けて、SDGsとの関連を意識しながら、自らが目指す学問や志望校に向けた志望理由書を作成する。添削指導を受けながら繰り返し書くことで、進路に向けた取り組みに留まらず、自己の適性についても客観的に見つめる機会とする。2年次の冬季休業明けには1年次と同様に外部講師によるSDGsフォーラムを行い、これまで考えてきたSDGsの課題と自身の目指す進路との結びつきを確認する。

3年次には、「研究レポート」の作成をメインに探究活動を行い、SDGsとの関連を意識しながら進路目標分野のテーマを設定し、夏季休業期間中にレポートを完成させる。3年6月には最後のSDGsフォーラムによって、自身の目指す進路と、これまで取り組んできたSDGsに関する探究活動とを具体的に結びつける。なお、総合型選抜・学校推薦型選抜希望者には、夏季休業中より個別に志望理由書の指導や面接練習、小論文添削を並行して実施する。

③科目選択説明会（教務部）

1、2年次では次年度の「科目選択説明会」、3年次では「後期科目選択説明会」を行う。

④オープンキャンパスへの参加（進路指導部）

2年次の夏季休業中に、希望進路先のオープンキャンパスに参加し、上級学校の学部学科への理解を深めるため、レポートを作成する。

⑤スタディーサポート（進路指導部）

自己の生活の振り返りと、学習状況の調査を行い、今後の高校生活の送り方を考える。1年次では4月、8月、3月（2学年第1回分）、2年次では8月、3月（3学年第1回分）に実施する。

⑥卒業生体験談（進路指導部）

大学の学部学科での研究内容の紹介、受験勉強等について卒業生から体験談を聞く。1年次3月には卒業したばかりの卒業生から、高校生活の送り方や受験勉強の体験談を聞き、学問系統別ガイダンスと同日に実施する。2年次の3月には、全体会と分科会に分け、大学3、4年生を中心に研究内容や大学等の生活の紹介を聞く。

(10) 交通安全学習（担当：生徒指導部）

交通社会のあり方を命の尊さに関連づけて捉える力を、体験研修、事故事例研修、講演会を通して総合的に養う。

(11) 主権者教育（担当：2学年・公民科）

選挙権が18歳以上となったことや、今後成年年齢が18歳になることを踏まえて、主権者教育の一環として、模擬投票を行うなど、外部講師を招聘して実施する体験学習や、租税講話を通して、社会の一員としての自覚を促し「自立する18歳」の育成につなげていく。

(12) 生徒自治活動（担当：生徒指導部）

①生徒会活動

異年齢の生徒同士が協力し、「体育祭」、「文化祭」の行事だけでなく、「生徒大会」、「各種委員会」、「ロングホームルーム」、「部活動」などに関わり、自治活動のあり方を学び、実践する力を育成する。また、基本的な生活習慣の確立を自発的に行うことができる集団に育つ企画を行う。

②部活動

学業とともに部活動でも上位レベルを目指す生徒を育成し、日々の部活動を通し、努力を継続する力とコミュニケーションスキル、学業と両立させるための根気や、他者への感謝などを学ぶ。

③LHR（ロングホームルーム）

集団として合意形成を図りながら、自身の目標に向かって意思決定していく力を育む。

4、総合的な探究の時間の扱い

「総合的な探究の時間」は、各学年1単位として扱う。ロングホームルームは履修単位としては扱わないが、時間割に入れることが義務づけられている現在の指導要領ではカリキュラム上、「総合的な探究の時間」および「ロングホームルーム」の時間を中心に、学校全体の教育活動の中で「鵬（フェニックス）プラン」に取り組んでいくことになっている。

時間割は木曜6校時（および、3年次前期の火曜7校時）を「総合的な探究の時間」、7校時に「ロングホームルーム」に設定する。